

# 川づくりワークショップ

【第7号】

平成24年12月28日発行  
古賀市役所建設産業部建設課

## 今年度最後のワークショップを開催！

～皆さんと考える川づくり

整備イメージ模型がついに完成～

整備イメージの検討を行うワークショップも今回で最終回となります。

今回は、前回ワークショップで皆さんからいただいた意見を踏まえ、九州大学に模型を仕上げてくださいましたので、その模型の最終確認、合意形成を図ることとしました。

### 【第7回ワークショップ】

開催日：平成24年12月15日

13時30分～15時30分

場 所：古賀市役所大会議室

参加市民：16名



完成した整備イメージ模型

## 第7回ワークショップの内容

- ・ 整備イメージ模型の最終確認、合意形成
- ・ これまでの振り返りと今後のワークショップ

### 九州大学からの模型の説明

今回の模型を仕上げるにあたり、ポイントとなった点の説明がありました。

- ・ 旧河道への流入口である円管部分の河床高を上げるこ

とで、帯工までの間の水の流れをつくっている。

- ・ この流入口の円管は、低木などで見えないようにしている。（＝景観に配慮する。また、子どもが立ち入らないようにする。）
- ・ 流速を変化させるため、河川幅に変化をつけている。
- ・ 飛び石を設け、対岸への移動を可能としている。
- ・ 左岸の高い位置に、バードウォッチングができる東屋を設けている。
- ・ 右岸はどこからでも水際に近寄れるようにし、水際は川本来の植生を再生し、水中には、巨石や水制などを導入して水の流れを複雑化することで、多種多様な生物の住みかになるようにしている。
- ・ 前回ワークショップの意見を踏まえ、左岸下流部水際の平場にデッキを設け、通路及び階段でデッキに下りられるようにしている。しかし、前回、帯工より下流部は魚、鳥の生息箇所として整備することとしていたので、デッキの整備についてはどうするか決めきれていない。

### 模型の最終確認、合意形成

九州大学の説明の後、模型の最終合意形成に入りました。その際、大きく以下の2点について、議論が交わされました。

【1点目：左岸下流のデッキ及びそのデッキに降りる通路、階段について】

（皆さんの意見）

- ・ 右岸側にもデッキが欲しい。
- ・ 帯工より下流側は魚、鳥の生息箇所として整備することで前回決定した。デッキ、階段を整備することで人も寄り付けるようになり、前回の決定事項にそぐわない。
- ・ デッキは整備しなくても、維持管理する上で最低限の通路は整備するべきだ。
- ・ 通路は、石張りなど自然に馴染むものとするべきだ。
- ・ 自然を残すエリアなので、何も整備しなくていいのではないか。

これらの意見が出されましたが、議論の結果、デッキは整備せず、維持管理できるよう通路のみ整備することで合意形成がなされました。

【2点目：植樹について】

まず、河川管理者の福岡県から、治水上、堤防の上、護岸の上には植樹できないことについて説明を受けました。

(皆さんの意見)

- ・ シンボルツリーの樹木選定は？
- ・ 左岸は家も張り付いていることから、模型のようにたくさん樹木はいらぬのではないか。
- ・ 低木の植樹も考えていいのではないか。

これらの意見が出されましたが、議論の結果、以下のよう  
に合意形成がなされました。

- ・ 日陰を作る場所も兼ねたシンボルツリーは、右岸の植樹可能な場所に設置すること。
- ・ 樹木の設置箇所は、今回ワークショップで作り上げた模型を基に設計を行うコンサルタントに図面を作ってもらい、その図面を次回ワークショップで確認すること。
- ・ 樹種は、今回ワークショップで結論に至っていないので、今後検討する必要があること。
- ・ 低木は、遊んでいる子どもの姿を隠すことがあるため植樹しないほうがよいこと。
- ・ 左岸樹木（特に石積みの上）は、間引いて植樹すること。

なお、その他の意見として以下のような意見も出されましたが、これらは設計の段階で反映させていくこととなりました。

- ・ 左岸石積みの箇所は、転落防止柵がないと危険ではないか。
- ・ 通称象の鼻の突堤を釣りの際腰を下ろせるように階段状に整備する、又は巨石を設置したらよいのではないか。



模型を囲んでの議論

#### 設計図作成についての確認

模型の合意形成が図られた後、計画案の設計図作成について以下の点を確認しました。

- ・ 計7回のワークショップで議論し、皆さんと一緒に作成した模型を基に、コンサルタントに設計図を作成してもらうこと。
- ・ 設計図の作成に当たっては、ワークショップで合意形成されたイメージが反映されるよう福岡県、九州大学、

古賀市が責任を持って監修・議論・確認を行うこと。

- ・ 設計図ができ次第、ワークショップを開催し、皆さんと確認を行うこと。

## これまでのワークショップの振り返りと今後のワークショップ

### ワークショップの振り返り

現地視察に始まり、大根川の歴史、整備箇所の都市計画上の位置づけ、河川工学と学んできたこと、子ども対象のワークショップで子どもの川への思いをヒアリングしたこと、水質や生息する魚、植物を調査したこと、多自然川として整備された福津市の上西郷川を視察して学習したこと、班に分かれて整備イメージを検討したり発表したりしたことなど4月から行ってきたワークショップを一通り振り返りました。

### 今後のワークショップ

今までのワークショップは、どのような河川に整備したらよいかというハード面の議論が主でしたが、今後は、コンサルタントが作成する設計内容やパース絵の確認を行ったり、整備後の維持管理のあり方、ソフト事業の展開方法などについて話し合っていく予定です。また、維持管理、ソフト事業を展開する母体となる組織作りについても考えていきます。

開催は、来年の春ごろになる予定です。

## ワークショップを開催して

ふるさと古賀の環境を良くして行こう、そして子ども達にこの環境を引き継ごうという思いを持った皆さんと一緒に考えてきた川づくりワークショップ。市民の皆さんとワークショップで川づくりを行うのは、古賀市では初めての取組でしたが、皆さんは、どんな感想を持たれているでしょうか。

今回のワークショップにおいて、整備イメージの合意形成が図られたことから、一旦ワークショップを終えることとなりますが、維持管理、ソフト事業、組織作りとまだまだ決めていかないといけないことがたくさんあります。

今後とも、皆さんの意見を頂戴しながら川づくりを行って参りますので、これからも市の土木行政にご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。第7回ワークショップの報告書とします。